

森

フォレスト・ニュース

NO.989

20年7月

のひろば

近畿中国森林管理局

大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp>



「東中国山地緑の回廊ワークショップ」若杉天然林エコツアー（岡山県西栗倉村）

若杉天然林につながる美しい森林づくり

6月8日、岡山県英田郡西栗倉村において、一般参加者や関係者ら77名が参加し、「東中国山地緑の回廊ワークショップ」を開催しました。

【関連記事は2～3頁】

INDEX

- 02 東中国山地緑の回廊ワークショップ
2008 in 西栗倉
—指導普及課—
- 04 「美しい森林づくり」に向けて
—企画調整室—
- 05 安宅勧進帳の森「安宅林国有林」
—石川森林管理署—
- 06 各署等の取組・行事の紹介
- 07 シリーズ 森林を守る
手取川の源流「湯の谷」
—治山課—
- 08 ぐりーんエッセイ
「大台ヶ原の国有林を歩く」
—フリーアナウンサー 青山佳世—



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を使用しています。

東中国山地緑の回廊ワークショップ

2008 in 西栗倉

～若杉天然林につながる美しい森林づくり～



新緑の若杉天然林

6月8日（日）、近畿中国森林管理局・岡山県西栗倉村の主催による「東中国山地緑の回廊ワークショップ」を西栗倉村の若杉天然林及びあわくら会館で実施しました。

同回廊の面積は7千645ha（保護林を含む）で区域面積の約半分がスギ人工林となっており、国有林だけでなく、民有林873haも含んでいます。このため、昨年度のシンポジウムに引き続き、地域・民有林との連携や普及啓発を図ることを目的にワークショップを開催しました。

新緑のブナ林でエコツアー

「東中国山地緑の回廊ワークショップ」当日は梅雨入り直後で、雨が心配されましたが幸い晴天に恵まれ、午前中は、緑の回廊内の若杉天然林でエコツアーを実施しました。道上正寿西栗倉村長のあいさつの後、2班に分かれて5kmコースの散策を行いました。最年少者1歳を含む参加者らは、樹齢200年以上のブナをはじめ、ミズナラ、カエデなどが林立する新緑の森で、自然観察や森林の美しさを体感しました。

若杉天然林は、「森林浴の森日本百選」にも選ばれている天然林で、かつては国有林であったものを大正7年に村が買い取ったもので、以来、村有林として大切に保全されています。

野生鳥獣との共生に向けた地域間の連携

午後は会場をあわくら会館に移して、ディスカッションを実施しました。朝比奈近畿中国森林管理局長のあいさつの後、地元西栗倉村や同回廊の周辺地域などで様々な取組をされている次の5名の方々に発表をいただきました。

①（財）西栗倉村森の村振興公社 事務局長 上山隆浩氏

村と協力し、エコツアーの企画・運営やＩターン支援などの実施

② ＮＰＯ法人上山高原エコミュージアム代表理事 小畑和之氏

兵庫県北部の上山高原をフィールドに自然再生事業への取組

③ 氷ノ山自然ふれあい館 響の森 自然解説専門員 高橋宏氏

氷ノ山の北西に位置する「氷ノ山ふれあいの森」において、森林ボランティアによる森林整備、環境教育を実施

④ (株)木の里工房 木薫 代表取締役 國里哲也氏

西粟倉村で森林の管理から地元産材を使った製材、玩具や木工品、家屋内装などの商品開発、販売までを一貫して実施

⑤ 日本イヌワシ研究会事務局長 須藤明子氏

イヌワシが生息する自然環境の保全への取組

発表者からの主な意見は以下のとおりです。
○ 観光と農業との連携が生む相乗効果として、感動や想い出を創出する心産業（しんさんぎょう）興しを目指して取り組んでいる。

○ 伐採から加工・販売までを一貫して行うことによって、中間マージンを削減し、山主にお金が払える新しい循環づくりを目指している。

○ イヌワシの生息地保全のためには、生物多様性の保全や健全な生態系の維持が必要で、イヌワシが繁殖できる環境は、我々人間にとっても大切。

○ スギ人工林を伐採して、ススキ草原の復元や広葉樹の植栽に取り組んでいる。

○ 森林ボランティア活動の参加者のモチベーションを高めるため、目標を定め、目標までの過程を明確にし、かつ参加しやすい形態にしている。

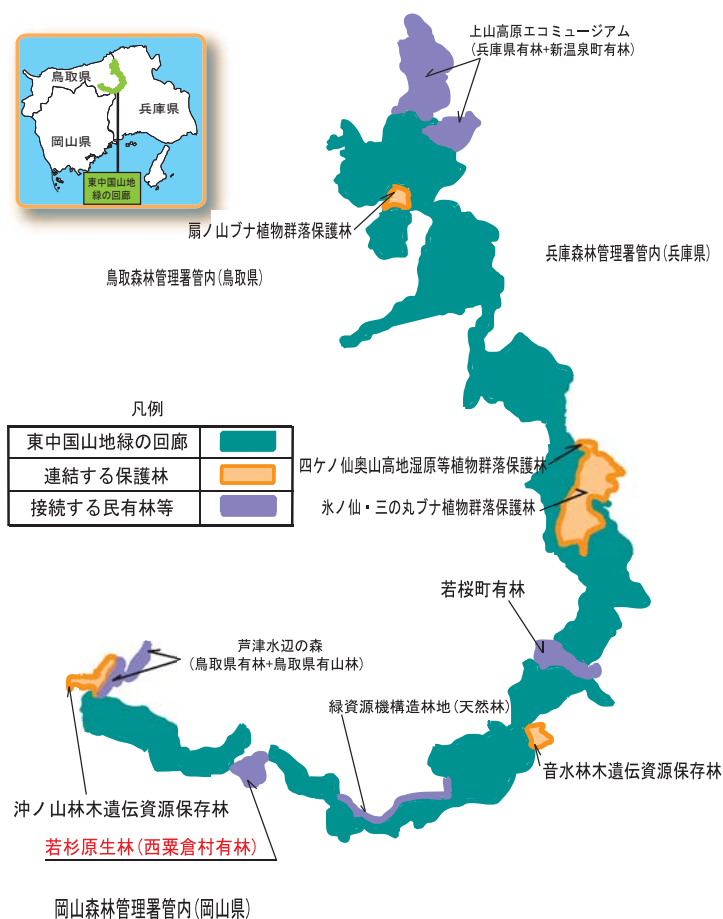


エコツアー参加の皆様



ディスカッションの様子

東中国山地緑の回廊設定区域図



最後に、コーディネーターを努めて頂いた日置佳之・鳥取大学教授が「3県にまたがっている当回廊は地域間の連携が重要である。今回のワークショップもその第一歩だ」と思うが、単なる情報交換にとどまらず、本当の意味での地域間連携となっていくことを期待する。また、緑の回廊における野生鳥獣との共生については、まだまだ課題も多いが、今後も連携しながら取り組んでいこう」と呼びかけ、次期ワークショップ開催予定の兵庫県美方郡新温泉町にある上山高原エコミュージアムの小畑代表理事から、あいさつを頂き閉会しました。

3県にまたがり、かつ民有林も含む「東中国山地緑の回廊」の効果を高めるためには、それぞれの地域や関係機関等が一体となった取り組みが不可欠です。今後も連絡調整会議やワークショップなどを通して連携を一層深め、より良い緑の回廊となるよう努めていきたいと考えています。

「美しい森林づくり」に向けて

去る5月16日、「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法（間伐等促進法）」が施行されました。この法律は、京都議定書の森林吸収量の目標を達成することを目的としており、この法律に基づき、第一約束期間の最終年である平成24年度までに実施される間伐等に対しては、交付金の交付や地方債の特例等の措置がなされます。

この法律は民有林を対象にしたものですが、近畿中国森林管理局においては、民有林での間伐等の森林整備を側面からサポートする観点から、国有林での取組事例の紹介や間伐等のモデル林の設定を進めています。



低コスト路網作業システムモデル林（広島北部森林管理署 俵原山国有林）
列状間伐と高密度路網を組み合わせ、高性能林業機械を活用した低コスト路網作業システムを実施。間伐により林内の照度が保たれ、下層植生の繁茂を促す条件の整った状況。



昨年実施した低コスト路網現地検討会の様子



民有林路網と連結した作業路網
（島根森林管理署 八川国有林）

①高効率な間伐

国有林での間伐を実施している林業事業体には、簡易で壊れにくい路網と高性能林業機械の活用により、高い生産性を実現している事業体が存在します。特に、伐倒・集材・造材・運材工程を連動させる作業システムにより、中核となるプロセッサの造材能力を高度に発揮させている事業体では、伐倒・造材・山元土場までの搬出に係るコストを5800円/mに抑えるとともに、12m/人日という高い生産性を達成しています。

②民有林・国有林の連携による森林整備

森林管理署等においては、民有林と国有林が一体となった森林共同施業団地の設定を進めています。これにより、団地内を循環する効率的な路網の整備や高性能林業機械による間伐等が可能になります。

③間伐等のモデル林

近畿中国森林管理局では、間伐や針広混交林化などに関するモデル的な取組事例を森林管理署等ごとに1箇所以上選定し、森林・林業に携わる関係者の方々の視察や技術検討会などに活用していただく予定です。これらのモデル林については、近畿中国森林管理局のホームページで紹介していますのでご覧ください。 <http://www.kinki.kokuyurin.go.jp>

④低コスト路網現地検討会の開催

近畿中国森林管理局では、森林組合や林業事業体等の職員を対象として、低コスト路網に関する現地検討会を開催してきましたが、今年度も、9月に岡山森林管理署で、10月に和歌山森林管理署で、それぞれ、現地検討会を開催する予定です。

これらの取り組みについては、5月から6月にかけて都道府県ごとに開催された説明会において民有林の関係者に紹介したところです。近畿中国森林管理局では、森林吸収目標の達成に向け、民有林・国有林を通じた森林整備を今後も引き続き推進していくこととしています。

安宅勸進帳の森「安宅林国有林」

あたかばやし

石川森林管理署 ②9

歌舞伎「勸進帳」で有名な安宅の関

兄の源頼朝に謀反を疑われて追われる源義経、武蔵坊弁慶の一行は、ここで関守・富樫泰家の尋問に合うが、弁慶が偽りの勸進帳を読み、義経に似た貴様が憎いと打ちすえて主人を守った。忠義に心打たれた富樫は義経一行を通過させてしまう。

この県指定史跡の「安宅の関跡」に隣接しているのが安宅林国有林です。面積は約69haで、全域を安宅林風景林に指定し、マツ林の林内には遊歩道やサイクリングロード等が整備され、観光客や市民の散策・森林浴の場として、多くの人に親しまれています。

また、平成15年5月に当国有林の約19haを小松市立安宅小学校と「遊々の森」安宅勸進帳の森との協定を結び、毎年、学校の行事や当署職員による森林教室を開催し、森林の働きや大切さを、自然にふれあいがら学んでいく場として活用されています。

安宅林国有林はクロマツ主体の森林で、日本海から吹き付ける厳しい潮風から家屋や田畑を守るため、防風保安林に指定し、古くから地域で大切に守り育てられている

国有林です。

しかし、近年、松くい虫による松枯れ被害が国有林・民有林ともに目立っており、藩政時代から守り育てられたマツ林が急激に減少するとともに防風保安林としての機能も低下しつつあるため、その対策が急がれています。

石川森林管理署では、地元の小松市や関係機関等と連携し、松くい虫防除薬剤の地上散布、被害木を林外へ持ち出して破砕処理を行う特別伐倒駆除などを行い、被害の拡大防止を図ると共に、松くい虫の被害を受けにくい抵抗性のある苗木を被害地跡に植栽するなど、将来に向けた保全活動を実施しています。

今後も「安宅の関跡」の背景林としてマツ林を維持・保全していくためには、国有林と民有林が一体となつて対策を講ずることが重要であり、そのためには、地域住民や関係機関との連携をより一層強化し、藩政時代から守り育てられたマツ林を次世代に残すための整備を進めていきたいと考えています。



国有林内の遊歩道



安宅の関に建つ銅像 左から義経、弁慶、富樫



松くい虫防除の様子

◆安宅の関へのアクセス

所在地：石川県小松市安宅町
公共交通機関の場合 JR小松駅から小松バス安宅線で15分、関趾前下車、徒歩3分

車の場合 北陸道小松ICから3分
周辺には、資料館、休憩施設、安宅海浜公園などがあります。

〒920-0115

金沢市田上本町七一街区一番

TEL050-31601600

FAX076-22116215

<http://www.kinki.kokuyur-in.go.jp/ishikawa>

各署等の取組・行事の紹介



銀閣寺山国有林においてマツ林 再生に向けた現地検討会を開催

【京都大阪森林管理事務所】 5月21日、銀閣寺山国有林において、「京都伝統文化の森推進協議会」との共催により、「マツ林再生に向けた現地検討会」を開催しました。

当所では、平成18年度より「古都のマツの緑復活プロジェクト」として、京都の景観にマツの風景を再生するために様々な取組を進めており、今回の現地検討会では、昨年度の施業の実施結果を学識経験者や地

元関係者に視察していただき、今後の取扱についてアドバイスを受けることを目的に開催しました。

現地検討会には、「京都伝統文化の森推進協議会」の専門委員として、田中和博京都府立大学教授、小椋純一京都精華大学教授、黒田慶子森林総合研究所関西支所地域研究監の3名のほか、林木育種センター関西育種場、NPO法人大文字保存会、京都市林業振興課、京都大学の関係者に出席していただきました。

当日は、大文字山の登山口に集合した上で、福田所長より、銀閣寺山国有林におけるマツ林再生のための施業についての説明を行いました。具体的には、昨年度実施した、マツノザイセンチュウによる枯損木の伐倒、伐倒木のNPO法人大文字保存会へ



現地検討会の様子



地掻き後に発生したアカマツの稚樹

の売り払い、生存大径木への薬剤注入の実施、アカマツを被圧する広葉樹の除去、高島屋のボランティアによる「地掻き」の実施、抵抗性アカマツ苗木の植栽について説明を行いました。その後、林内へと入り、元山流域管理調整官より、現地での施業実施状況について説明しつつ、意見交換を行いました。

参加者からは、広葉樹の除伐を行った箇所ではアカマツの稚樹が発生しやすい環境をつくるために地掻きを行うべき、高島屋のボランティアにより地掻きを行った箇所は、マツの稚樹が多数発生しており、地掻きの効果は十分あったものと考えられる、今後、稚樹の発生状況について調査を行うべきであるなどの意見がありました。当所では、今回の現地検討会で得られたアドバイスも踏まえて、今年度も、「京都伝統文化の森推進協議会」とも連携しつつ、銀閣寺山国有林においてマツ林再生に向けた施業を進めていく方針です。



滑山国有林に案内看板を設置

【山口森林管理事務所】滑山国有林に「案内看板」を設置しました。
案内看板は木製で、横120cm縦90cmのものとなっています。

この滑山国有林は、山口県下最大の国有林団地（約2千500ha）であり、かつ

て東大寺再建用材を伐り出すなど古くから良材の生産地として林業活動が盛んに行われ、現在はスギ、ヒノキ人工林を中心とした美林として有名です。一方、残存している天然林には、滑マツ（樹齢二百年生以上のアカマツ）とブナが共生している森林や巨大なモミ林があり、貴重な森林として林木遺伝資源保存林・植物群落保護林として保護に努めています。また、当国有林は平成18年4月「森林セラピー基地」として林野庁より指定され来訪者が多くなりしました。この案内看板が来訪者へのPR、道案内に役立つことを期待しています。



来訪者へのPR効果に期待

手取川の源流「湯の谷」

梅雨期、台風期を迎え、山地災害への備えが重要な時期となりました。近畿中国森林管理局の管内でも、平成16年の台風21・23号災、平成18年の梅雨前線豪雨などが記憶に新しいところです。

これらの山地災害により荒廃した林地の復旧は、管内の14の森林管理署・森林管理事務所が担当しています。これらの取組、過去の災害の記録や現在の山の姿などについて、今後シリーズで紹介していきます。

第1回は、管内最北、石川森林管理署が石川県最大の河川、手取川の源流「湯の谷」で行っている治山対策です。

この谷では、昭和9年の梅雨期に豪雨に見舞われ、谷の斜面が崩落、大量の土砂が流出しました。このとき下流の市ノ瀬集落では、死者100名を超える壊滅的な被害が出たと記録されています。

地質が脆く、多雨多雪の「湯の谷」では、現在でも崩壊の進行、土砂流出が見られますが、以前のような被害が繰り返されないよう、石川県の要請を受けて、石川森林管理署が山腹崩壊防止のための治山施設を設置するなど、森林の復旧に取り組んでいます。

取組に当たっては、地元のボランティアにより、植樹や手入れ作業が行われるなど、地域と一体となった整備を進めているところです。



事業着手前の荒廃状況



治山事業完了後の状況



地元のボランティアによる植栽などの作業

グループ対抗

里山デジカメ選手権

身近な森林の再発見!!

「身近な森林の再発見!!」をテーマに学校、森林ボランティア、企業、家族、友達などのグループが共同作業により創作したデジタル写真作品を募集します。

今森光彦氏（写真家）

審査員 只木良也氏（農学博士）

青山佳世氏（フリーアナウンサー）

応募締切

平成20年
10月3日（金）



箕面のオオクワガタの
デジくんです

入賞作品

林野庁長官賞（1グループ）

木製賞状・ニコン製デジタルカメラ1台

琵琶湖博物館長賞（1グループ）

木製賞状・エプソン製プリンター1台

近畿中国森林管理局長賞（7グループ）

木製賞状・木製時計

お問い合わせ・応募の詳細は、
箕面森林環境保全ふれあいセンター
TEL 075-414-9049 FAX 075-414-9029
URL: <http://www.kinki.kokuyurin.go.jp>

美しい森林づくり国民推進運動
関連イベント情報

7・8月の主なイベント

地域	開催日	名称	内容	場所	お問い合わせ先
高野町	7月19日 (土)	デジカメ探検 隊	自然の中の生き物を、子ども の目で捉えた写真の作成	高野山国有林	和歌山森林管理署 TEL: 050-3160-6120
大野市	7月26日 (土) ~ 27日 (日)	森と湖に 親しむ 森の 親しい どい	福井森林管理 署出展ブース ・森の工作、 紙芝居、木製 スマートボール	九頭竜国民 休養地ほか	「森と湖に親しむ 旬間」全国行事現 地実行委員会事務 局 TEL: 0779-65-2240
京都市	7月29日 (火)	夏休み 親子木工 教室	京都市内の小 学生と保護者 による木工作	近畿農政局	京都大阪森林管理 事務所 TEL: 075-414-9822
近江八幡市	8月2日 (土)	伊崎国 有林の ふれあ いの森 づくり	歩道修理	伊崎国有林	主催: NPO法人ヒ マラヤン・グリー ン・クラブ TEL: 077-534-0984 支援: 滋賀森林管 理署 TEL: 077-544-3871
大山町	8月 未定	大山並木 代再 生活動 に自然 観察会	大山並木松の 手入れ、並木 松周辺を散策 しながらの専 門指導員によ る自然観察会	大山国有林	鳥取森林管理署 TEL: 050-3160-6125

その他、森に親しんでいただくための様々なイベントを計画しております。詳細については、ホームページをご覧ください。
http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/kyoku/category_a/a-02/utsumori.htm

ぐりーん エッセイ

大台ヶ原の国有林を歩く

～森林ふれあい推進事業に参加して～
5月31日～6月1日

青山 佳世（あおやまかよ）

愛知県生まれ。フリーアナウンサー。NHK「おはよう日本季節の旅」で関東甲信越226箇所を旅したほか、生活情報番組を中心に担当。まちづくり・観光・道・川・森林・防災など、市民の視点で講演、執筆活動に取り組む。パイオマスニッポン総合戦略推進アドバイザーグループ委員。林政審議会委員。



正木が原の白骨化したトウヒの林
植生回復の取組がはじまる（写真は筆者）



原生林の中で深呼吸する参加者たち

奈良県と三重県境に位置する大台ヶ原。年間降雨量5000mmという独特の気象条件がはぐくんだ原生林、切り立った崖など独特の景観が人気を呼んでいます。一度行ってみたいと思っていた矢先、ふれあい推進事業としてNPO法人 大杉谷自然学校が企画したエコツアーで、めったに人が入らない国有林を歩くことができると聞いて参加することにしました。

「ここからは自然と動物たちの世界、私たちはお邪魔しますという気持ちで入っていきましよう」

ご案内は国有林の中の山小屋で働き、大台ヶ原のことは隅から隅まで知っているという森さん。エコツアーの心構えを聞いて、いざ出発。

屋久島を思わせる苔むした林の中を整備されたハイキングコースが通っています。

ブナの新緑のなんと柔らかい色。シャクナゲのピンクの花、そしてシロヤシオの可憐な花が咲いていて、標高約1600メートルの大台ヶ原はまさに春爛漫。
「あー鹿がいる」 目の前に小鹿が立ち止まってこちらを見つめています。
「かわいいい！」 みんな思わずカメラを向けます。

そしてハイキングコースを離れ、いよいよ三重県側にある大杉谷国有林へ入ります。ご案内があるからこそ迷わず歩けるのですが、うつそうとした原生林が我がものになったよう。

木の根元を見ると、網で囲ってあったり、間伐材で囲ってあるものがあります。これは鹿の食害から木を守るためのもの、ボランティアの人たちも参加して網を巻いたそうです。根元を鹿に食べられ、痛々しい姿

の木が目立ちます。

大台ヶ原の観光名所の一つ「正木が原」はトウヒの南限地として有名ですが、今や立ち枯れて白骨化した木が一面広がる独特な光景が一つのシンボルにもなっています。

かつての台風によって倒れた木から新たな芽生えが出ています。それが鹿の食害にあわないよう試験的に網などの対策をとりながら自然を再生していくそうです。

ここでは大自然に感動するとともに、愛らしい鹿と自然の木々、人間の営みがともに成り立つように人間は知恵をださないといけない・・・澄んだ山の空気と一緒にそんな思いが体中に浸みてきました。

もう一つのハイライトは山小屋でのひととき。森さんの撮影した四季折々の大台ヶ原の映像を見た後、山や自然に思い入れの

ある参加者たちが管理署のメンバーも加わって肩肘はらない語り合い。自然や森林、林業の話題にも広がって話は尽きることがありません。

ふれあい推進事業は貴重な森林と私たち一般国民との触れ合いの機会であるとともに、林野庁との触れ合いの機会でもあります。国有林の現場も仕事もなかなか私たちの目に触れることはありません。単なる山歩きや自然観察に終わらない、何かを残せるかはさりげないやり取りの中にあるのです。

林野庁の業務も時間的・人的に余裕がなくなる中で、こうした機会は貴重です。これから治山や森林再生なども含めた山の現場をできるだけ多くの人たちにも知らせる機会をつくって欲しいものです。